

関東支部研究発表会発足の思い出

信州大学名誉教授 田草川 信雄

日本セラミックス協会関東支部からのご指名で、本年7月23日、日立多賀市民会館で関東支部70周年記念の講演をさせていただいた。とくに、支部研究発表会発足当時のことを思い出してとのことであったが、前置きとして、私が辿った研究環境のことも紹介した。以下にその要旨を記す。

関東支部は、1941年(昭和16年)に発足したが、このとき私は小学校(当時は国民学校)1年生。同年12月8日には太平洋戦争が勃発し、1945年(昭和20年)8月に悲惨な結末で終戦となった。忘れられない時代である。

私は、1953年4月山梨大学工学部応用化学科に入学。窯業協会(現セラミックス協会)に入会したのは、大学を卒業して山梨大学の助手として研究活動を始めた頃である。1962年、恩師の斎藤 肇教授が山梨大学から北海道大学工学部応用化学科へ転任し、北大工学部に初の無機合成研究室が設置された。私も同研究室へ助手として移った。まだ、札幌は路面電車が走っていた。ここで、筆者らは高強度結晶化ガラスの研究を本格的に開始した。

1967年4月から斎藤教授が名古屋大学工学部応用化学・合成化学科へ転任した。私も助手として移った。当時、学生運動が盛んであり、キャンパスでは、活気と混乱の毎日だった。産学の癒着が問題視され、「産学共同」は不用意に使えない言葉であった。しかし、ここでの5年間は、ガラスの相分離と結晶化についての研究に集中することができた。これは、恩師の斎藤教授と同研究室の先生方、学会でめぐり合った他大学の先生方、企業の開発担当の人々などから頂いたご指導・ご鞭撻のお陰であり、いつまでも感謝を忘れることはない。

1972年4月から信州大学工学部合成化学科に助教授として移った。まだ学園紛争のなごりがあった。セラミックス分野の研究は、工業化学、合成化学、電気電子工学の各学科で進められていた。私もガラスの相分離と結晶化に関する研究成果を学位論文にまとめることができた。また、1979年8月から1年間、妻と二人の娘を同伴し、文部省在外研究員として米国UCLAに留学した。そこでは、大学研究者が外部研究者との交流を大切にしている様子を実感し、研究に集中することも必要だが、多様な研究者からの刺激を受けて、研究活動を活性化することも不可欠だと感じ、帰国してからの活動に大きな影響を受けた。

しかし、地方大学である信州大学でセラミックス関係の学会を開くことは容易ではなく、地元の人には、広くセラミックスの専門家に接する機会には恵まれなかった。このことに私は「物足りなさ」を感じていた。そこに、関東支部長からの電話があった。

当時の関東支部長の金澤孝文先生(当時都立大学)からの電話で、「関東支部で研究発表会を開きたいが、首都圏ではなくて信州で開催しないか」との打診があった。当時、私は一瞬戸惑ったが、信州大学にも多くの研究者がセラミックスに関する研究活動を熱心に続けていたし、また、地域企業の経営者が新素材としてセラミックスに関心を持ち始め、私も参加して勉強会を進めていたところでもあった。信州の田舎でも学会を開くことができるかも知れないと感じ、地元の関係者にも協力を願って開催することとした。

1985年8月、長野市内のホテルで初めての関東支部研究発表会を開催した。企画するにあたり、次の2つのことを念頭に置いた。①支部の若手から大先生までが、未発表・既発表にかかわらず、ご自分の研究などについて語りあえる場としたい。②開催日は、夏休み中とする。今日とは違って、当時は夏季講習などが少なかったので、学生さんの夏休みが良かろうと判断した。発表会の運営は手探りではあったが、支部からのご配慮と地元関係者および参加者のご協力で2件の特別講演と27件の発表があり、なんとか無難に開催することができた。その後、回を重ねるにしたがって発表件数も増え、1989年、長野市飯綱高原で第5回目の研究発表会では2件の特別講演と34件の研究発表があり、発表会の翌日は有志がゴルフを楽しんだりした。今は故人の児島先生(当時山梨大学)、柳田先生(当時東京大学)などとも一緒にプレーしたことを懐かしく思い出す。

若手研究者の表彰は何年から始まったか記憶がないが、グッドアイデアであり、発表する若手研究者の発表力の向上だけではなく、発表者が熱心であれば、採点を担当する審査委員のご苦心も大きく、この「熱心と苦心」が相俟って、会員相互の交流を一層深める上でも有意義であると期待している。

これからも、関東支部の会員が結束して支部活動を一層充実させ、新進気鋭の若手研究者が向上心をもって、日々研究活動を展開することができる「場」を形成してほしいと願っている。関東支部、さらには、日本セラミックス協会のますますの発展を祈っている。

(たくさがわ のぶお/信州大学)